第　７３　号

平成２２年４月１日発行

寿楽院寺報

〒369-1245 深谷市荒川９８３
高野山真言宗　荒澤山 寿 楽 院
住 職　髙 橋 敬 行
電話　048-584-0302

一口法話

★ともに学びともに修めよう。
★月を見る人によって月は異なる。
★すべてのものはつながりあってできている。
★老いゆく身でありながら老いないということ。
★貪りの心から迷いの世界が生まれる。
★もともと生もなければ滅もない。
★人は我があると思うから、わがものに執着する。
★本来水にまるや四角の形があるのではない。
★煩悩がそのままさとりである。
★人は欲のために争う。
★なければないで苦しみ、あればあるで苦しむ。
★恩も知らず義務も知らず。
★善は幸いを悪は災いをもたらす。
★執着を離れ無常をさとる。
★原因と結果とをよくわきまえよう。
★仏は彼岸に立って待っている。
★体を鍛え心を練り智慧をみがこう。
★師について教えを受けよう。

四月八日は、花祭りです。

★善心は水に描いた文字のように消えやすい。
★耳に聞こえるどんな声でも仏の教えである。
★信はこの世の旅の糧。
★人の和合を念じよう。
★悪をとどめ善をすすめよう。
★道を求める心のないことはさらに苦しい。

貫禄……（定義）

生活の規範をわきまえ、礼儀作法も身につけ、物事を正しく考えて、深く理解し、是非善悪を弁別して、しかも、人としていつくしみ思いやりをもって、他に愛情を持って調和発展に心がけ、慈悲あり、しかも、雄々（おお）しく、威（たけ）く、率先堂々とリーダーシップがとれ、人からは信頼される立派に人に備わる重み、威厳を貫禄という。

伝言板

死んだら苦しみは終わる
しかし、喜びも終わるんだ。

人間（にんげん）

仏教が生んだ日本語

迷いの世界とその中に存在するもののありさまを説いて「地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天」の六道の中の「人」が人間である。つまり人間とは、人がかかわり合って生きているこの迷いの世界を意味する言葉である。だから、「人」に「間」という字がつけられているのだ。しかし現代は、この言葉を問われることなく使われているのではないだろうか。

空海の言葉　シリーズ

己身（こしん）の膏肓（こうこう）を療（りょう）せず、他人の腫脚（はれあし）を発露（あらわ）す

●●●他人の病気のことをとやかくいう前に、自分の病気をまず治せ

自分のことを棚にあげて、他人のことをぼろくそにいう人のことを評して、「目くそ、鼻くそを笑う」

といいます。そんな人が弘法さんの時代にもたくさんいたようです。

「どうして己れ自身が難病にかかっているのを治そうとしないで、他人の脚が腫れ上がっているのを見て、あれこれいうのか」